

林業および木材加工業界に影響を与える

中国の経済・社会動向

業界の状況と市場の動向

2025年8月、林業の購買担当者景気指数（FPMI）を見ると、業界の景気は回復の兆しを見せている。8月のFPMIは48.95で、前月比4.98ポイント上昇し、拡大基調への復帰まであと一步のところまで来ており、製造業PMI（49.4）の動向とほぼ一致している。サブ指数では、製紙業の指数が58.75、木製家具業の指数が54.88と、いずれも拡大傾向にあり、川下の一部で需要回復の兆しがある^[22]。

中国木材加工業の総生産額は1.2兆元を突破したが、業界の利益率は5年前と比べて18ポイント低下した。従来の規模拡大に依存した成長モデルは持続困難となり、主に資源面の制約（輸入木材依存度45%）、環境規制圧力（VOCs-揮発性有機化合物-排出基準超過企業が32%）、消費の高度化（高級オーダーメイド需要の年間増加率25%）という3つのプレッシャーに見舞われている。

『中国人造板-木質パネル産業報告2025』によると、2024年末時点で全国の木質パネル産業の総生産能力は約3億3,000万立米/年である。しかし市場は深刻な調整期にあり、企業数は減少傾向にある。2024年、全国の木質パネル生産企業は約6,600社で、前年比14.9%減少した。このうち合板企業数は18.7%減、ファイバーボード企業数は22.3%減、パーティクルボード企業数は5.8%減となった。業界全体で適者生存が進み、生産能力構造は最適化へ向かっている^[23]。

広西チワン族自治区来賓市は「1+3+N」という産業構成に従い、中核となる複数の木材加工パークを構築した。2024年の木材加工生産額は200億元近くに達し、2年間で倍増を達成した。パークには複数の企業が入居し、「原木からスマートホームまで」全てを網羅した産業チェーンができあがった。単位生産額当たりのエネルギー消費量は業界平均を25%下回り、中西部地域における産業高度化のモデルケースとなっている^[24]。

家具製造業は木材の重要な川下産業であり、その需要低迷は木材加工業界に直接影響を与えている。1~7月の累計売上は3,530.9億元で前年同期比5.4%減、利益総額は151.9億元で同15.2%減となった。注目すべきは、利益減少幅が徐々に縮小傾向にあること（1~2月の-29.7%から1~7月は-15.2%へ縮小）であり、業界の収益状況が改善しつつあることを示している^[25]。

カーボンクレジット取引がもたらす新たなチャンス

林業カーボンクレジット取引は林業発展の新たな方向性を示している。湖南省の「湘林炭票-湖南省の森林持分・排出削減証書」、浙江省瑞安市のCCERプロジェクト、雲南省寧洱県のカーボンクレジット取引など各地で行われている取引は、林業経営者に木材販売以外の追加収入源をもたらしている^[1-3]。

この傾向は「営林による炭素吸収量増加→取引による利益獲得→林業への還元」という好循環を形成しつつある。炭素取引は林業の経済的価値を高めるだけでなく、森林資源の保護と質の向上を促進し、「ダブルカーボン（排出ピークアウトとカーボンニュートラル）」目標達成に重要な意義を持つ^[1]。

技術革新とグリーン転換

木材加工業界におけるインダストリー4.0技術の浸透率は38%に達している。IoT生産ライン動的スケジューリングシステムにより原料ロスが15~20%削減され、AIによるビジュアル選別装置はディープラーニングを経て原料利用率を90%以上に高めている。デジタルツイン工場を導入した企業では、主要工程のエネルギー消費を22%削減し、歩留まりを85%まで向上させている。

国家発展改革委員会の「重点業界における揮発性有機化合物（VOCs）総合管理方案」の推進により、低ホルムアルデヒド接着剤の普及率が2020年の40%から2025年には68%に向上した。先進企業では技術改

造により製品の単位当たり VOCs 排出量を 70%削減している。ENF グレード・ノンホルムアルデヒドボードは複数の大手家具メーカーのサプライチェーンに採用されている。バイオマス改質技術も進歩し、アセチル化改質プロセスにより屋外用木材の耐候性が 3 倍向上した^[24]。

国際市場と貿易動向

中国企業のグローバル展開：中国トップ企業は「一帯一路」林業協力を通じてグローバル展開をさらに進めている。例えば、ロシアに設立した二次加工パークでは「国外植林+国内加工」方式により EU の CBAM（炭素国境調整メカニズム）関税を効果的に回避し、欧州向けに輸出する FSC（森林管理協議会）認証製品の割合が大きく増加した。海外資源統合能力を有する企業が成長を牽引しており、「一帯一路」沿線林業協力プロジェクトの投資リターン ROI は 15~20%に達する^[24]。

四川省広元市の家具産業のレベルアップ

国の政策誘導のもと、各地方の重点プロジェクトが林業・木材加工産業の転換・高度化を推進する重要なエンジンとなっている。その中でも四川省広元市の取り組みは特に典型的である。2025 年 9 月、川陝甘（四川・陝西・甘肅）国際木材貿易センターが中国西部（広元）グリーン家具産業シティで正式に開業し、同時に「ロシア~広元」「ニュージーランド~広元」の 2 路線の国際木材専用列車が運行を開始した。このプロジェクトは「地方の国有企業+全国的に有名な木材市場+木材販売業者」という革新的な運営モデルにより、産業チェーン資源を効果的に統合し、四川・陝西・甘肅三省に広がる木材集散センターと家具産業クラスターの構築を目指している。その戦略的意義は、安定的で効率的かつ国際的な原材料サプライチェーンを構築し、内陸地域における木材輸入の物流ボトルネックを解消し、企業の総合コストを削減することにある。現在、同プロジェクトには既に複数の産業チェーン川上・川下企業が入居しており、将来 500 社以上を集積するという目標の基盤がすでに築かれた。同時に、パーク内の「美好世家家居」などの企業は、スマート生産ラインへの改造を積極的に推進しており、生産性と製品の付加価値を大幅に向上させ、「国際物流+貿易プラットフォーム+スマート製造」が融合する枠組みを形成した。これは、全国の同様の地域におけるグリーン家具産業発展の参考となるモデルである^[26]。

まとめ

本報告は、中国の林業及び木材市場における政策環境、貿易動向、価格変動、業界運営とイノベーションなどについて整理・分析を行ったものである。

現在、中国木材市場は従来型モデルからグリーンで持続可能な方向への積極的な転換期にあり、政策誘導と市場メカニズムというダブルエンジンのもと、構造の最適化、新たな業態の誕生という特徴が顕著となっている。政策面では、多くの革新的な施策が実施され、カーボンクレジット取引メカニズムがさらに整備され、「林票-森林持分証書」制度の試行も進んでいる。金融サービスも健全化に向かい、森林管理の改革が着実に推進されている。同時に、国は、主要な生態プロジェクト実施、国家公園関連法整備、業界基準の更新、「プラスチックを竹に置き換える」など、具体的な産業政策にさらに注力しており、業界の質の高い発展の方向性を示し、強固な制度的保障を与えている。

市場面では、業界は国内外の複雑な環境に向き合い、強い適応力と調整能力を発揮しており、輸出入動向としては調整局面にある。川下需要構造の変化が産業チェーンの再構築を加速させている。企業は技術のアップグレード、グリーン生産、グローバル展開などを通じて課題に対応し、製品の付加価値と国際競争力を高めている。地域産業クラスターと重点プロジェクトの先行効果が徐々に現れ、業界の発展モデルや成長推進力の転換が進展している。中国の林業と木材市場は、現在、依然として多くの課題に直面しているものの、より強靱で持続可能な質の高い発展に向け、新たな枠組みを形成しつつあるといえよう。

参考資料

[22] 国家林业和草原局 国家公园管理局.

<https://www.forestry.gov.cn/c/www/lcdt/640735.jhtml>

[23] 国家林业和草原局 国家公园管理局.

<https://www.forestry.gov.cn/c/www/lcdt/643496.jhtml>

[24] QYRESEARCH.

<https://www.qyresearch.com.cn/news/25070/wood-manufacturing>

[25] 山东省应对国际贸易摩擦综合信息服务网.

http://commerce.shandong.gov.cn/art/2025/9/3/art_250176_10357581.html

[26] 四川省经济合作局.

<https://jhj.sc.gov.cn/scjhj/szdt/2025/9/4/ba51c31a55e7492b8b3c2265fccble31.shtml>